

第 60 回番組審議委員会議事録

1. 開催年月日 令和 4 年 9 月 28 日(水)午後 10:30~11:30
2. 開催場所 和歌山県田辺市宝来町 8-21 泉ビル 2 階
3. 委員の出席 委員総数 6 名 出席委員 3 名

出席委員の氏名 野村悠一郎、安達克典、橋智史

欠席委員の氏名 森下憲一、小倉拓、吉田光利

放送事業者側出席者氏名 泉清、生田奈穂、濱田由希子、安田正

リモート参加 安田豊

欠席者氏名 洞周作、大崎健志、角田圭三

議題 1) 局側挨拶 (現状報告)

2) 議題

□番組聴取

9 月 4 日(日)に放送した「田辺市避難訓練特別番組～命を守るため

に～」のダイジェストを聴取、ご意見・ご感想

3) その他番組への質問・意見

4) 今後の放送に対する意見・要望

5) その他

局側挨拶・報告

1. 局側挨拶

泉：本日はありがとうございます。 前回開催時は第七波がどうなかという状況でしたが、恒例となっていました夏の間に 24 時間生ラジオを放送をしたり、放送設備のメンテナンスを行ったり、放送としては順調にいつも通り出来たのかなと思っています。9 月に入ってからは、先日上富田町でいちのせバッティング杯（学童野球）の中継を行いました。当日は雨に追いかけながらも無事に中継する事ができました。これからは弁慶まつりにむかって、事前特番と併せて当日は現場から生中継を行う予定で準備をしております。

2. 議題

～番組聴取～

野村：我々も地域で防災訓練を行ってますが、よく言われる訓練と実践は違うと、平成 21 年と 23 年の大震で感じました。避難場所はここ、避難経路はこうときっちり確認したとしてもです。農村センターで祝賀会をやっている時に田辺市から避難勧告が発令されて、その会場が避難場所になるという経験もありました。そして消防団を動員して全戸へ放送にまわってもらいました。そうすると人がたくさん

ん集まつてくるし、ずぶ濡れで来る方もいて収集がつきませんでした。大概広い場所が避難場所になっているので毛布や敷物の用意に手間取っていたら、堅い床で寝られないといった声も出てきながら夜中の3時頃までかかりました。この時にお寺に避難された方もいて、でもその時はそのお寺が避難場所に指定されていなかったので、町内会独自でお寺含め他の何軒かの施設と第二避難所の協定を結びました。

橘：消防団と町内会がうまく連携されていて良いですね。

野村：そうですね。道路は冠水するし、携帯電話は繋がらないし、トランシーバーで連絡取りますが混線してなかなか上手くいきませんでした。訓練と実践はいかに違うか、身をもって実感しました。そんな中、動いてくれた消防団はつくづく頼りになると思いました。

生田：避難場所や経路など避難する事の訓練や呼びかけはよくしますが、野村さんのお話を伺って受け入れる側の訓練というのも重要だと感じました。

橘：わたしもその日娘と、田辺市の防災訓練に参加していました。そしたら訓練開始直前に火事が発生して、そちらの対応に追われて屯所に向かう事になったので、9時ちょうどには訓練が開始されない事

態になりましたね。

泉：すごいタイミングでしたね。

橋：これが実際に起こったらどうなるんだろうと考えましたね。もし消火活動を行っている時に津波がきたら途中でほっていくのかとか。東日本大震災の時は津波がきたらすぐ逃げろと言われましたが、今は変わってきていて津波が起こっても計算上では 20 分くらいかかると言われています。その 20 分の間で出来る事をやるように言われています。

泉：以前防災士さんから、地震が発生してからの時間なので例えば地震が 3 分揺れたら、到達分數から 3 分引いてねと言われました。揺れている間は動けないので。

橋：第一波でいきなり大きな津波がくるのは限らないので、諦めずに逃げないといけないですね。

生田：今回訓練と火災が重なったことで、これまで想定していなかつた事もあり田辺市ともこういった場合の連携の方法も話し合う事ができました。

安達：重なるといえば今回のように訓練と火災というパターンもありますし、先日の台風の時は台湾は地震発生するし日本にも津波が

くるかもしれないという状況がありましたので脅威を感じましたね。

7月に熊本に行く機会がありまして熊本地震の時のお話を聞いたら、

避難所の運営が難しかったと。避難所だと思って行った場所が指定されている所ではなかったので、水も物資も届かず。でもかなりの人数が避難されていて、特に水に困ったそうです。和歌山市も橋の崩落で断水が続いた時がありましたが、田辺市もいつどうなるか分かりません。この辺りも老朽化が進んでいるのでしっかり管理していくかなければならぬのではと痛感しました。

野村：調査をしっかりとしないといけないですね。

安達：野村会長もおっしゃっていますが、田辺市全体で出来なくとも地区ごとに避難所の訓練をやってもらった方が安心して任せられる部分もあるかと。そして情報をきちんと伝えていくことも大事だと思います。平成23年の台風の時に龍神にいたのですが、何が起きているのか分かりませんでした。電話、停電で孤立してしまって。何日か後に出ることができたので軽トラで救援物資を取りに行きましたね。

野村：水でもパン一つ配るにしても難しいですね。

橋：今はさらにコロナ禍での避難というもの難しいですね。

安達：実際問い合わせがありました。子どもがコロナになっているんだけど、避難所は受け入れてくれるのかと電話がありました。行政局で個別に部屋を作るので、そこに来てくれていいですよとなりました。

野村：その辺りの問題はいまだに大きな課題です。しかし、以前のような忌み嫌うような対応はないですね。

安達：みんな色んな知識や経験が増えてきて訓練も出来るようになったので、こういった番組をやる事に意義があると思います。

野村：東北に何度か視察に行きましたが、決まって言われるのが地震が起きたらすぐ外へ逃げようとするけどそれは一番やめてほしいと。第一の理由が、そんな簡単に歩ける状況じゃないから。ガラスの破片でいっぱいなので枕もとにスリッパでもいいので置いといてくださいと、どこ行っても言われました。

安田正：大阪のほうで防火管理の会長を仰せつかっていたことがありまして、あの頃は自転車を会社で用意してほしいと市役所から言われてました。ガラスがいっぱい落ちるので車では動けない。自転車やバイクを全てパンクをしないタイヤにしたことを思い出しました。ガラスはとても危険で、実際に復旧活動にいくときも車に頼れ

ないので自転車やバイクが交通手段としては大切です。

安田豊：いろんな実体験に基づくお話を聞かせていただき、大変勉強になりました。避難所というのは簡単に用意できる体制が整うわけではないでしょし、いろんな事を踏まえてこなければならないなと改めて認識しました。FM TANABE としても、そういう事を頭に置きながら何か起こった時は価値ある放送を務めていくようにしていきたいと思いますので、またアドバイスなどしてください。よろしくお願いいたします。

3.その他番組への質問・意見

特になし

4.今後の放送に対する意見・要望

生田：今後予定している番組として、以前にもお聴きいただきました高校生と海上保安庁や自衛隊につづきまして第3弾として、今度は消防と高校生とのコラボ番組を企画しております。

野村：是非、消防団員さんを取り上げてほしいですね。

濱田：10月末～11月上旬の秋に予定しています。消防本部の方を招いてお話を伺っていくのですが、先日打ち合わせしていましたら消防本部の方から消防団も是非取り上げてほしいと言われました。

野村：現場で動いてくれてますからね。

濱田：今回の企画は消防本部になるのですが、どこかの機会で消防団の方にもお話を聞けたらいいなと思っております。

野村：分団長巡りとかいいですね。

泉：30分団しかないですからね。

橋：女性分団もあって全国で訓練も行ってますね。

泉：幼年消防団もほとんど出来てきて、そろそろ意識も下から高まつてきてますから。

安田正：消防本部さんと高校生のコラボ番組が終わったら、30分団を巡って幼年消防団の子どもたちも交えたような取り組みにスポットをあてて FM TANABE に何が出来るのか、日ごろの活動の中に取り入れていくことは大切だと感じました。番組作りに反映できるよう社内で話し合っていきます。

5.審議機関の答申または改善意見に対して採った措置及びその年月

日

特になし

6.審議機関の答申または意見の概要の公表方法

内容：審議内容について公表

方法：ホームページ掲載 (<http://www.fm885.jp/>)

7. その他参考事項

特になし